

特定外来生物

オオキンケイギク

真正双子葉類 キク科 *Coreopsis lanceolata*

生態系被害防止
外来種リストの区分

緊急対策外来種

日本の侵略的外来種ワースト 100

世界の侵略的外来種ワースト 100

哺乳類

鳥

類

は

虫

類

両

生

類

魚

類

昆

虫

類

甲

殻

類

植

物

基礎情報

原産地

- ・北アメリカ(ミシガン～フロリダ、ニューメキシコ)

現在の分布

- ・世界では、台湾、オーストラリア、ニュージーランド、サウジアラビア、南米などに移入分布
- ・国内では、沖縄を含むほぼ全国に分布している。
- ・県内では、一部の市町を除きほぼ全県に分布している。



侵入の経緯

- ・日本には明治時代に渡来し、観賞用に栽培された。戦後、各種工事の法面緑化用に播種されるようになり、これらが逸出して、20年ほど前から河川敷等で大きな群落を作るようになった。
- ・河川の土手等に黄色い花を一斉に開花することから、地域の住民に親しまれている場合がある。

形態

- ・多年生草本。
- ・茎は高さ30～70cm。根元付近から束状に多数生えている。
- ・根元から生えてくる根生葉は、生育初期は細長いへら状で、生長が進むにつれて3～5枚の小葉に分裂する。
- ・茎から生えてくる茎生葉も同様の形だが、葉柄は短く、対生することが多い。両面とも粗い毛がある。
- ・越冬時の葉は、ロゼット状※に広がる。
- ・他のキク科植物と同様、小さな花(舌状花と管状花)が多数集まった直径5～7cmの頭状花を花柄の先につける。舌状花、管状花ともに黄色～オレンジ色で、舌状花の先は不規則に4～5つに分かれる。
- ・果実は瘦果(薄くて硬い果皮の中に一つの種子が包まれている果実)をつける。

※ タンポポの葉などのように、茎が伸びずに根際から葉が重なり合い、地面に接して放射状に広がっている状態



生育環境

- ・路傍、河川敷、線路際、埋立地など、日当たりの良い所に生育する。
- ・河川堤防や道路路面など、かつて緑化のために積極的に散布された場所もあり、そのような場所では本種のみが繁茂し、花期には一面が黄色の花畑のようになっていることもある。

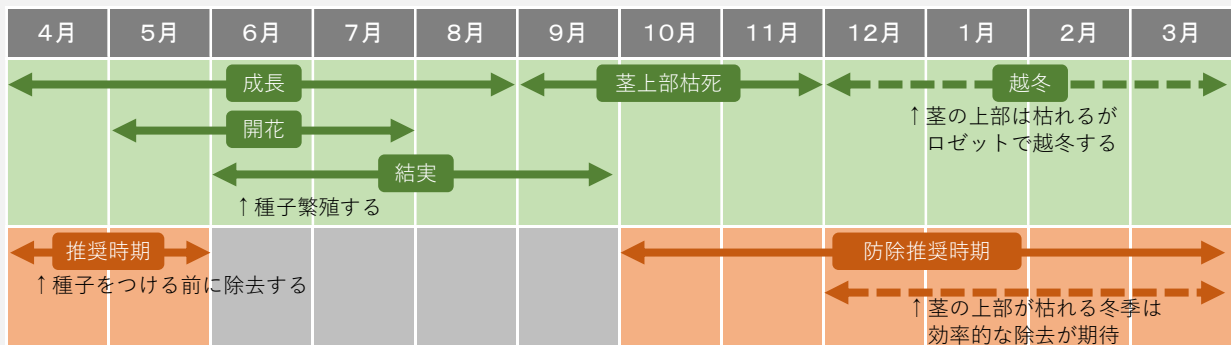
生態・ライフサイクル

- ・開花期は5～7月。開花後、夏から秋にかけて結実する。
- ・多年生草本で、冬はロゼット状の葉を形成して越冬し、暖かくなると成長を始める。
- ・1花あたり100粒前後の多数の果実(種子)をつけ、よく繁殖する。また、倒れた茎の途中から根を出し、新たな個体となることもある。
- ・根茎が残っていると容易に再生する。
- ・種子は土壌に埋まっても発芽能力を維持し、永続的な土壌シードバンクを形成する。



河川沿いで繁茂するオオキンケイギク

【ライフサイクル・防除推奨時期】



類似種との識別ポイント

- ・本種の開花期(初夏)に黄色の花をつける主な類似種として、ハルシャギク、ホソバハルシャギク、ブタナ(いずれも外来種)がある。これらのうち、ホソバハルシャギクは、本県での確認事例は少ない。
- ・キバナコスモス(園芸品種)も本種に似るが、夏～秋に開花し、葉が細かく切れ込むため識別は容易。

ハルシャギク (外来種)

①花の中心が紫褐色

②葉は線形で細長い

①花の中心から花弁の根元にかけて紫褐色になる。
②葉は線形で細長い。

ブタナ (外来種)

①花はタンポポに似る

②葉の縁が切れ込む

①花弁はタンポポのように幅が細く、数も多い。
②葉は縁が深く切れ込み、硬い毛が密生する。

- 哺乳類
- 鳥類
- は虫類
- 両生類
- 魚類
- 昆虫類
- 甲殻類
- クモ類
- 貝類
- 植物

影響・被害

- ・繁殖力が強く、群落を形成して在来植物の生育場所を奪う。
- ・全国的に自然度の高い河原環境が減少しており、そのような環境に固有の植物(カワラサイコ、カワラハハコなど)は生育地が限られているため、影響が大きい。

哺乳類

鳥類

は虫類

両生類

魚類

昆虫類

甲殻類

クモ類

貝類

植物

生育・被害の確認方法

- ・路傍、河川敷、線路際、埋立地など、本種の生育の可能性のある場所を踏査し、生育個体を目視により確認する。花が黄色で大きく、遠くからでも識別することができるため、開花期(5~7月)が望ましい。
- ・多くの植物が枯れる冬季もロゼット状で越冬するため、慣れれば効率的に確認できる。
- ・既存の研究調査に関する文献や目撃情報をインターネットや図書館で探す。
- ・地域の住民や農業従事者、専門家などを対象に聞き取りやアンケート調査を行う。



越冬個体

防除方法

- ・本種は永続的な土壌シードバンクを形成するため、地上部を除去しても、翌年以降に土中の種子から発芽し、再び繁茂することがある。このため、防除は複数年にわたって、継続的に実施する必要がある。
- ・侵入の初期、群落規模が小さいうちに除去することが有効である。
- ・手作業による除去が一般的である。

推奨時期

- ・種子をつける前で、花(あるいはつぼみ)による識別が容易な開花期初期(4~5月)。種子をつけた後に除去作業を行うと、かえって種子を周囲にばらまいてしまうおそれがある。
- ・生育場所が判明している場合、茎の上部が枯れる冬季や早春は、効率的な除去(駆除作業の労力や、処分量の軽減)が期待できる。

具体的な防除方法

- ・群落の規模が小さく個体数が多くない場合は、他の生物に対しての影響が小さい手作業で除去する。
- ・個体数およびバイオマス(植物体の量)が多く大きな労力が必要となる場合は、刈り払い機等により地上部の刈り取りを行う。
- ・最終処理は、一般廃棄物として廃棄する(各自治体の基準に従う)。
- ・本種は、開花期であれば識別が容易で、除去にあたり特別な技術や道具を必要としないため、市民が参加しやすい。また、駆除活動を通して外来種問題を学ぶことができるため、市町村や市民団体等の主催により、各地で駆除活動が実施されている。本県では、令和5年5~6月に24件※の活動が行われている。



行政と市民の協働による駆除活動

※ 愛知県が把握している活動に限る。

【主な防除方法】

区分	方法	概要
物理的防除	抜き取りによる除去	<ul style="list-style-type: none"> ・手作業により根ごと抜き取る。またはスコップや根掘り等を用いて表土ごと掘り取り除去する。技術的に実施が容易。 ・根茎から再生するため、できるだけ土中に残さないよう留意する。 ・種子の供給源とならないよう、作業中に落下した果実や花も回収する。 ・本種のみを対象とした選択的な除去が可能で、他生物への影響が少ない。 ・1度の除去作業で根絶に至る可能性は低く、複数年継続する必要がある。
	刈り取りによる除去	<ul style="list-style-type: none"> ・種子をつける前(5月下旬)までにカマや刈り払い機で地際から刈り取る。 ・抜き取りによる除去に比べ労力を必要とせず、種子による繁殖を抑える効果があるが、根茎が残るため再生する可能性が高い。分布の拡大を抑制することはできるが、根絶は困難。 ・木曾川の事例では、2月を含む時期に複数回刈り取ると、開花数を抑制する効果が高いと報告されている。

哺乳類
鳥類
は虫類
両生類
魚類
昆虫類
甲殻類
クモ類
貝類
植物

作業上の注意点等

- ・防除作業を行う前に、対象地の所有者・管理者の承諾を得る。必要に応じて、地域住民にも防除の目的や活動内容を周知する。
- ・生きたまま保管・運搬等することは原則禁止されているため要注意(植物の場合は完全に枯死させる必要がある)。地方公共団体の職員が処分のために一時的に行う特定外来生物の運搬は飼養等禁止の例外規定に該当するが、市町村が単独で長期的に防除を行う場合は、国による防除の確認を受けることが望ましい。なお、地域住民やボランティアが植物に関して小規模な防除を行う場合は、以下の要件をすべて満たせば保管・運搬が可能になる。

- ①小規模な防除を行う者が、当該防除に伴い運搬をするものであること。
- ②防除した当該植物を処分することを目的として、廃棄物の収集、運搬又は処分に供する施設に運搬すること。
- ③当該植物の落下、種子の飛散その他の理由による野外への逸出を防止するための措置をとっていること。
- ④防除を行う者が、あらかじめ当該防除に関する事項を掲示板、インターネット等を使用する方法により公表していること。

- ・根茎から容易に再生するため、できるだけ抜き残しがないようにする。作業に使用した道具、長靴、刈り払い機などに種子や根茎が付着して運ばれる可能性があるため、作業後は洗浄する。
- ・種子の発芽率が高く、風に飛ばされやすいことから、なるべく種子をつける前に除去する。
- ・除去した個体は袋に詰める。種子をつけている場合は、袋の外にこぼれ落ちないように留意する。
- ・土壌シードバンクを形成するため、除去後も再び繁茂するおそれがある。作業後も定期的に確認を行い、再生が認められた場合は直ちに取り除く。

必要な法令上の手続き等

- ・特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づく防除の確認・認定の手続き(市町村単独の防除の場合)

出典・参考資料

- ・侵入生物データベース > 日本の外来生物 > 維管束植物 > オオキンケイギク (国立研究開発法人 国立環境研究所) <https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/80490.html>
- ・日本の外来種対策 > 特定外来生物の解説 > オオキンケイギク (環境省 自然環境局) <https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/list/L-syo-01.html>
- ・日本の外来種対策 > 外来種写真集 (環境省 自然環境局) <https://www.env.go.jp/nature/intro/4document/asimg.html>
- ・特定外来生物同定マニュアル 植物 (環境省 自然環境局) https://www.env.go.jp/nature/intro/2outline/manual/10hp_shokubutsu.pdf
- ・河川における外来植物対策の手引き (国土交通省 河川環境課,2013)
- ・地域と連携した外来植物防除対策ハンドブック(案) (国土交通省 河川環境課,2021)
- ・愛知県の外来種 ブルーデータブックあいち 2021 (愛知県,2021) p.178 オオキンケイギク (瀧崎吉伸・芹沢俊介)